

お母さまは太陽

小川未明

青空文庫

「お母^{かあ}さんは、太陽^{たいよう}だ。」ということが、私^{わたし}にはどうしてもわかりませんでした。そうしたら、よくもののわかった、やさしいおじいさんが、つぎのようなお話^{はなし}をしてくださいました。

* * * * *

わしは、子供^{こども}の時分^{じぶん}、おおぜいの兄^{きょうだい}弟^{だい}がありました。そして、みんなが、お母^{かあ}さんを大好き^{だいす}でした。みんなは、朝^{あさ}起きると、眠^{ねむ}るときまで、楽^{たの}しいことがあったといい、悲^{かな}しいことがあったといい、「お母^{かあ}さん、お母^{かあ}さん……。」といいました。そして、お母^{かあ}さんの後ろ^{うしろ}についたものです。昼間^{ひるま}がそうあつたばかりでなしに、夜^{よる}になって寝^ねるときも、みんなは、お母^{かあ}さんのそばに寝^ねたいといつて、その場所^{ばしょ}を争^ありました。それで、お母^{かあ}さんを真^まん中^{なか}にして、四人^{にん}の子供^{こども}らが左^さ右^{みぎ}・前後^{ぜんご}に、輪^わになって休^{やす}みました。みんなは、いずれも、お母^{かあ}さんの方^{ほう}に顔^{かお}を向^むけて休^{やす}んだのです。それは、ちようど、草^{くさ}が、太陽^{たいよう}の方^{ほう}を向^むいて花^{はな}を開^{ひら}くのと同^{おな}じかつたのです。

だれでもそうであるが、私^{わたし}たち兄^{きょうだい}弟^{だい}・姉妹^{しまい}は、大^{おお}きくなつてから、いつまでもお母^{かあ}さんのそばにいつしよにいたことができなかつた。

わしも、なつかしい、やさしいお母さまのそばを離れて、旅へ出るようになった。そうすると、子供のときのようにな、お母さまのそばで楽しく、平和に寝たように、眠ることができなかつた。けれど、お母さまを慕う情はすこしも変わらなかつたのです。

「もう一度、ああした子供の時分に帰りたい。」と、思わないことがなかつた。

そして最後に故郷へ帰つて、お母さまを見ることは、どんなに楽しかつたかしれません。遠く故郷を離れて、他国にいるときでも、いつもやさしいお母さまの幻を目に描いて、お母さまのそばにいるときのように、なつかしく思つたのでした。ちやうど、太陽が、雲に隠れていて見えなくても、花は、その方を向いて、太陽のありかを知ると同じようなものでありました。

いま、わしの母は、もうこの地上には、どこを探しても見いだすことができない。そして、母はあの、夜というものがない天国へいつて、じつと、自分の子供たちがどうして暮らしているかを見ていなさることと思つている。それで、わしは、この年寄りになつても、西の夕空を見るたびに、なつかしいお母さまの顔を目に思い浮かべるのです。

これは、一人、わしばかり考えることでなく、わしの兄弟・姉妹が、みんな同じようなことを思つている……。お母さんが太陽だということは、これでもわかるであります。

しよう。

* * * * *
 これが、ものわかりのいい、^{ひと}人のいいおじいさんのお話^{はなし}でした。私^{わたし}にはよくその意味^{いみ}が
 わかった。また、みなさんが、草^{くさ}や、花^{はな}なら、お母^{かあ}さんは、まさしく太陽^{たいよう}であるといえ
 るでありますよう。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 5」講談社

1977（昭和52）年3月10日第1刷

※表題は底本では、「お母《かあ》さまは太陽《たいよう》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2014年1月18日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さまは太陽

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>